

令和元年度  
第1回基本評価等専門委員会  
会議録

日時：令和元年（2019年）7月18日（木） 11:25～12:00

場所：道庁本庁舎 7階共用B会議室

【出席者】

会長	すずき みさこ 鈴木 美佐子	北海学園大学法学部教授
副会長	うちだ けんえつ 内田 賢悦	北海道大学大学院工学研究院教授
委員	いしい よしはる 石井 吉春	北海道大学客員教授
委員	かさい さとみ 葛西 さとみ	行政書士カサイ・オフィス
委員	かねさか ゆみこ 金坂 由美子	税理士法人金坂会計事務所
委員	さいとう たくお 齊藤 拓男	(株)道新デジタルメディア メディアプランナー
委員	たけうち ひろお 竹内 弘雄	公認会計士竹内事務所
委員	やまもと ただお 山本 忠男	北海道大学大学院農学研究院講師

【事務局(北海道)】

北海道総合政策部計画推進担当局長

谷内 浩史

ほか

## 1 開 会

## 2 議 事

### (1) 令和元年度政策評価実施方針（案）について

#### 《審議》

##### 【齋藤委員】

- ・今後の審議するにあたって、道民目線とはどういったものか、効果的とは何に対して効果的か、効率的とはどういう状況が効率的かということ了他府県の調査も踏まえて議論のベースを作った方が良いと思う。このあたりが曖昧なので委員会の中で出てくるアウトプットも曖昧なものになりかねないので準備をお願いしたい。

##### 【鈴木委員長】

- ・先ほどの委員会でも出た点だと思うのでお願いする。

##### 【金坂委員】

- ・道民目線ということを実施する方々はどのような目線と捉えているのか。また、道民とはすべての道民を対象としているのか等漠然としている。道民目線で何を道民にということを確認にして取り組んだほうが良いと思う。

##### 【鈴木委員長】

- ・ぜひ、意見を踏まえていただきたい。

##### 【山本委員】

- ・制度と手法がごちゃごちゃになっていると思う。手をつけるのは手法だと思うが、どのように整理するのか。

##### 【事務局】

- ・昨年度は手法という言葉を使っていますが、一昨年から続けて行った見直しで、全事務事業対象から、評価手法をスリム化した。今回は少し広い意味で、どのような形で道民の方々に結果を届けるかも含めた制度全般にわたっての広い意味での検討対象と捉えている。
- ・何を議論しようとしているのか制度、手法や道民目線、効果的、効率的という言葉も含めて論点整理を始め、ぼやけないように十分準備をしていきたい。

【石井委員】

- ・効果的で効率的な評価ということが手法も含むという整理もあるかもしれないが、手法自体はもういいのではないかと思う。方法論自体は変わらないと思うので、むしろ過年度評価に対するフィードバックであるとか検証システムがきちんとしているかとか論点を絞り込んで伝えることをベースにした方が良いと思う。そこで手法に問題があれば結果の出し方に必要な方法論に触れる。分かりやすい評価は結果の話で、どう伝えるかがベースにあるので、必要なことは場合によって制度なり仕組みも考えるのは良いと思うが、手法自体を議論すると昨年と同じ話になり議論が拡散しかねないのでご検討をお願いします。

【葛西委員】

- ・昨年から参加させていただいて非常に違和感があることだが、外部評価委員として入ったが、実際には外部評価はされていない。それはなぜかと考えたら、出てくる資料では評価のしようがない。外部評価の人間が、評価できる帳票なり仕組みなりを考えていただきたい。また、過年度の経過や判断基準も考えていただきたい。

【石井委員】

- ・外部評価というのは評価する人のレベルが一定以上あることが前提になっている。施策ひとつひとつをある程度分らないと評価はできない。見る資料を膨大にすれば物理的に見ることができず結果的に評価できなくなる。常勤の評価委員を雇うなら別だが、この委員会のように数回集まるレベルで行える評価をどう構築するかという話になる。詳しく見るのは良いが、せいぜい10施策程度が限界。そのため、アプローチを現在のようにすることで見るができるようになった。体系的に全部を我々がチェックするのはそもそもできず、ジレンマではある。むしろ外部評価は道庁の人が評価軸を作ったら外部評価にならないので、そこは我々が作るべき。人によって視点が違うので違うそれぞれの委員の視点を足すと一定の物差になるというのが外部評価委員会だと思う。

【葛西委員】

- ・国の外部評価では同じように学識経験者や専門家で一定の議論がされて政策に反映されている。札幌市だと市民のワークショップを開いて外部の視点を入れている。

【石井委員】

- ・札幌市は事務事業評価がベース5年で施策レベルを一巡して、見ている事業は多分3割程度。事務事業評価に特化するならばその程度が限度で約20年度一巡するイメージ。道では約2,200あるので全部検証すると時間が足りないため、施策で課題のあるものを見つけてよというのが昨年からのやり方。施策レベルがよければ事務事業も良いという前提となっている。

**【葛西委員】**

- ・公共工事は、外部評価委員の評価がついている。

**【石井委員】**

- ・基本評価で施策が問題にあるものは捨てる仕組みになっているので、拾いあげるプロセスは同じ。

**【葛西委員】**

- ・今年度、拾いあげるプロセスを作り、来年度拾いあげ施策評価を行うことは想定されているのか。

**【事務局】**

- ・公共事業評価との比較で基本評価のあり方を捉えられているかと思うが、公共事業評価は、対象となる事業を地区ごとに個別点検評価して頂いている仕組みはあるが、基本評価は、従前から調書をひとつひとつ見てきた訳ではなくある程度ピックアップした事業評価をやったこともある。しかし昨年からは特定のものをピックアップするというよりも施策の進捗度によってあらかじめ絞り込んで議論をしていただき、基本評価等専門委員会に関しては、施策評価のプロセスを検証して頂きながら、その結果で出てきた昨年度では164の事務事業とそのプロセスや結果を審議いただく形で、公共事業評価とは異なった評価を実施させていただいている。昨年度も委員の方々との意見交換の中でお話させていただいた部分もあるが、伝わりづらかった部分もあると思う。基本評価はどういうことをターゲットにしているかを含め、もう少し説明しながら審議いただければと思う。

**【竹内委員】**

- ・評価委員になったときにぶ厚い全部の評価調書を見せられ物理的に無理だと思ったので今の方向性は良いと思う。我々としては道庁という大きな組織が自分達で自分達の効率性とか効果とかを見計らいながら業務をしてトップの指針などと有機的に連動しているかどうかが見えれば良いと思っている。そのような観点から評価をしやすいような材料を出していただければと思う。
- ・もうひとつは道の総合計画がすべてのテーマを扱っており幅広なので評価結果の報告のボリュームが膨らんでいる。年度によって個別のテーマに絞るとか、特定の部局をターゲットにその活動と評価状況をピックアップするなどして今までとは違う切り口で表現を工夫することを考えても良いのではないかと。

【石井委員】

- ・やり方はいろいろあり、当面は昨年変えたばかりなので今の評価を続けるとして、網羅性という意味では事務事業は数年サイクルで行うとか常にブラッシュアップしながら固定的に絶対というものはないので、数年ごとに積み上げているのが良いと思う。

【鈴木委員長】

- ・今の方法にフラストレーションを感じている部分もあると思うのでそこも取り入れられるようにしていければと思う。

【内田委員】

- ・評価の視点でひとつ目は分かるが、二つ目は誰視点なのか。誰にとって効率的なものなのか、効果的なものなのかどのように考えているのか。

【鈴木委員長】

- ・さきほどの話では、両方ということか。

【事務局】

- ・事務局で検討した段階では、調書に重複箇所等もあるのでそれを整理するという意味で効率的という部分と、その結果が総合計画の推進上の兼ね合いが分かりやすくなるという意味で効果的と考えている。また評価する者のというよりは目標達成に向けて効率的、効果的という考え。

【内田委員】

- ・効率性の点では目標だけで効率性を判断できるのか。効率性であればアウトプットとインプットの間関係を意識してやっていただくと道民目線でも分かりやすいと思うがどうか。

【事務局】

- ・当初はアウトカムをイメージしていたが、アウトプットとインプットでの効率化も検討させていただきたい。

【鈴木委員長】

- ・実施方針なので漠然とわからないまま方針を立てるわけにはいかないので、今までの意見を踏まえてどうか。

**【山本委員】**

- ・ 1の道民目線は知事も掲げているので道民が分かりやすい評価結果でよいと思う。2は、効果的で効率的ではなく、ひとつは目標達成のために効果的な評価がされているか。もうひとつは、評価調書の作成に時間がかかればヒューマンエラーがでる可能性も高まるので、評価プロセスが効率的なものになっているかに分けたほうがよいと思う。

**【鈴木委員長】**

- ・ その3点でどうか。

**【事務局】**

- ・ 今、ご指摘いただいたように、誰にとってなのかが混在しているので一つが道民の方にとって分かりやすい評価結果。もう一つは、我々が目指す目標達成に向けて、より効果的な評価制度とはどうあるべきか。それと我々自身の問題かもしれないが、さらに効率的な評価プロセスというか評価システムはどうあるべきか。大きく分けて3つのことですので分けさせていただき視点をはっきりさせていただきたい。

**【鈴木委員長】**

- ・ その点を整理して修正し皆様にお伝えするという形をとらせていただく。